

【研究概要】

本症例患者は、当院転院時には意識レベル低下、痙攣、低換気状態のため気管挿管され人工呼吸器管理となっていた。その後当病棟に転棟してきた時は、気管切開し人工呼吸器を離脱しており、開眼しているが意思疎通は困難で、体位変換、車椅子への移乗、トイレでの排泄など、日常生活は看護師の介助が必要な状態であった。栄養は意識状態に日内変動あり経口摂取が困難なため経管栄養にて管理していた。

今回、痙攣・不随運動期から緩徐回復期の臨床経過を多職種と連携し、経管栄養から経口摂取に移行ができた症例について報告する。